



事例ファイル:6

# 社会医療法人春回会 長崎北病院

西彼杵郡時津町元村郷800



【病院の特徴】

長崎北病院は、脳卒中(脳梗塞・脳出血)やパーキンソン病など脳神経内科およびリハビリテーションの分野における、高度の診療技術をもった病院を目指しています。病棟は、一般病棟、回復期リハ病棟、療養病棟があり、急性期から回復期・維持期まで連続して診療、リハビリを提供します。多職種が協力して診療にあたるチーム医療も特徴です。当院の理念であるPF (Patients First)を合言葉に、真心のこもった医療の提供に努めています。

- 【設置主体】社会医療法人
- 【病床数】200床
- 【病床稼働率】94%
- 【入院基本料】7対1(一般病棟)  
13対1(回復期リハ病棟)  
20対1(療養病棟)
- 【看護職員数】看護職員160名、看護補助者45名
- 【看護職の平均年齢】35.0歳
- 【離職率】11%

主な取り組み

- ① 超過勤務時間の削減
- ② 院内保育園の開設と利用支援
- ③ 就業規則の見直し

平成24年度の取り組み

1年目(平成24年度)

👑 1年目の成果

- ◆ 遅出勤者を配置することで超過時間勤務が減少した。
- ◆ 看護職員数の増加により遅出勤者の体制が整った。
- ◆ 院内保育園が開園し、常時利用・一時利用が可能となった。
- ◆ リフレッシュ休暇により連続休暇が取得可能となった。

時間外勤務帯の業務調査を行った結果、看護記録、食事介助等が主な内容であった。遅出の勤務区分を追加し、夕食の介助等にあたることで残業時間の削減ができた。保育園の運営は外部業者への委託とした。定期的な話し合いにより安定した運営が行われ、利用者が少しずつ増加した。事務部により就業規則が見直され、有給休暇、リフレッシュ休暇の取得がしやすくなり連続休暇(7日)も可能となった。

- ① 看護記録の適正化と効率化
- ② 職種間の連携強化と業務内容の見直し
- ③ 職場の活性化とモチベーションの向上

平成25年度の取り組み

2年目(平成25年度)

👑 2年目の成果

- ◆ 看護記録における重複記録の是正
- ◆ 看護補助者の定員増とクラークの全部署配置
- ◆ リハビリスタッフの全病棟配置によるチーム連携強化
- ◆ フィッシュを取り入れた職場風土作り、患者対応力の向上

時間外勤務の要因となっていた看護記録について、効率化に向けた取り組みを行った。看護補助者の採用を増やし、急性期補助者加算25:1が認められた。またクラークが全病棟に配置され、看護業務の負担軽減が図れた。リハビリスタッフが全病棟配属制となり、病棟でのADL訓練、看護スタッフとの協力体制が強化された。

- ① 看護業務の効率化
- ② 受け持ち看護の充実
- ③ 他部門・他職種との連携

平成26年度の取り組み

3年目(平成26年度)

👑 3年目の成果

- ◆ 電子カルテ入力の効率化、標準看護計画の修正
- ◆ 受け持ち看護活動が活性化された。
- ◆ 医事科職員の病棟での業務
- ◆ 薬剤師の病棟調剤業務

DPCIに必要なデータや看護必要度入力用のテンプレートを作成し、記録の効率化を図った。看護の質向上に向けて北病院の標準看護計画を見直した。受け持ち看護師の活動に関するマニュアルを作成し活動支援に取り組んだ。薬剤師、医事科職員が病棟で業務を行う時間が確保され、連携協力が図りやすくなった。